

鎮静評価

RASS (Richmond Agitation- Sedation Scale)

日本呼吸療法医学会の人工呼吸中の鎮静のガイドラインで推奨している鎮静レベルの評価法。

- 鎮静の目的：「患者の不安感を和らげ、快適さを確保すること。」 ※眠らせることではない。
- 鎮静の評価：鎮静薬使用により、その目的が達成されているかを定期的(1～数時間間隔)に評価。

RASS を用い、鎮静状態を評価し、鎮静レベルの調整を行う。

- 鎮静薬や薬剤の調整は、医師の指示に従う。
- 鎮静度：RASS スコアを用い、目標値を設定する（医師の指示）。

【 RASS 評価方法 】

0 を中心に 10 段階に分かれていて、プラスでは興奮、マイナスでは鎮静が強いと評価する。

ステップ 1	30 秒間、患者を観察する。これ（視診のみ）によりスコア 0～+4 を判定する。
ステップ 2	1) 大声で名前を呼ぶか、開眼するように言う。 2) 10 秒以上アイ・コンタクトができなければ繰り返す。 以上 2 項目（呼びかけ刺激）によりスコア -1～-3 を判定する。 3) 動きが見られなければ、肩を揺るか、胸骨を摩擦する。 これ（身体刺激）によりスコア-4、 -5 を判定する。

スコア	用語	説明	
+ 4	好戦的な	明らかに好戦的な、暴力的な、スタッフに対する差し迫った危険	
+ 3	非常に興奮した	チューブ類またはカテーテル類を自己抜去；攻撃的な	
+ 2	興奮した	頻繁な非意図的な運動、人工呼吸器ファイティング	
+ 1	落ち着きのない	不安で絶えずそわそわしている、しかし動きは攻撃的でも活発でもない	
0	意識清明な	落ち着いている	
- 1	傾眠状態	完全に清明ではないが、呼びかけに 10 秒以上の開眼及びアイ・コンタクトで応答する	呼びかけ刺激
- 2	軽い鎮静状態	呼びかけに 10 秒未満のアイ・コンタクトで応答	呼びかけ刺激
- 3	中等度鎮静	状態呼びかけに動きまたは開眼で応答するがアイ・コンタクトなし	呼びかけ刺激
- 4	深い鎮静状態	呼びかけに無反応、しかし、身体刺激で動きまたは開眼	身体刺激
- 5	昏睡	呼びかけにも身体刺激にも無反応	身体刺激